

## 地域団体代表者との意見交換会（報告）

- 1 実施期間** 令和 6 年 2 月 2 8 日（木）から令和 6 年 6 月 1 7 日（月）
- 2 実施地区** 義方、啓成、車尾、福生東、福生西、福米東、福米西
- 3 参加者** 地区社協、自治連合会、公民館、民生児童委員協議会、在宅福祉員会、地域ボランティアなど 合計 5 7 名

## 4 内容

### （1）地域福祉活動支援員（CW）の活動についての感想

- ・ 地域福祉活動支援員（CW）や市社協という組織も含めて関わってもらったことで、より多くの団体と繋がり、活動も広がっている。
- ・ 地域福祉活動支援員（CW）は話しやすく、相談しやすかった。市に担当課でないと言われても、最後まで関わってくれるため信頼できる。
- ・ 市の職員は業務が細分化され、分からないことが沢山ある。社協が間に入って通訳者になると上手くいくと思う。
- ・ 市の地域活動支援員と地域福祉活動支援員（CW）の連携がとれているところがいい。
- ・ 自治会に関することは地域活動支援員、福祉のことは地域福祉活動支援員（CW）、学校のことは地域学校協働活動推進員、皆がいわば相談員で内容に応じて相談でき、助かっている。
- ・ （立上げ支援を行った）サロンが出来てから、3自治会合同で活動する機会が増えた。サロン活動が定着して良かった。
- ・ サロンの立ち上げに際し、助成金の申請支援をしてもらった。備品を購入し、楽に活動できるようになったため、みな喜んでいる。
- ・ 中学生と一緒にモルックが出来るように調整してもらった。子どもが減り、子どもと触れ合う機会も減っているため、サロンメンバーも校長先生も喜んでいて。
- ・ おさがりどうぞの会は、多くの人が参加しており地域でも必要なことだと思った。身近な問題として捉えることができ、こういった動きが拡大して自治会加入に繋がると良い。
- ・ 福祉のまちづくりプランの会議に参加し、とても有意義な話を聞くことが出来た。おさがりどうぞの会についても、地域の人に喜んでもらった。こういうことを続けたり、深化させたりする必要がある。
- ・ 福祉のまちづくりプランでは、何度も来てもらっていろいろなきっかけを作ってもらった。放っておいても何か生まれるわけではないため、こういう場があって良かった。
- ・ 地域福祉活動支援員（CW）の関わりはありがたいが、地域の状況をよく理解し、持続可能な活動となるよう指導して欲しい。
- ・ 事業開始時に事業の説明を受けたが、活動の目的や内容が十分理解できなかった。地区の皆がもっと活動内容を把握できていると良かった。

### 地域福祉活動支援員（CW）に期待される役割

- 他の団体、企業、学校等とのつなぎ役
- 住民だけでは対応が難しい場合の支援者
- 活動に関する情報提供、提案、きっかけづくり
- 地域住民と行政・関係機関との間の通訳者

### （２）これからの地域に必要なこと、地域福祉活動支援員（CW）と協働したいこと

- ・ 子どもたち中心の活動にすると、親や祖父母、協力者など、色々な人と関わりが増える。何をするか若い世代と一緒に考え、子どもたちの考えをバックアップできればいい。
- ・ 自治会単位、地区単位での多世代交流の活動が必要。（具体例として、祭り、防災活動、スポゴミ、米川清掃時の川の生き物観察、e スポーツなどが挙げられた）
- ・ コロナ禍以降、一時子どもたちを排除するような形で活動が広がった。子どもに参加してもらえるような姿勢で臨む。
- ・ コミュニティスクールが始まることをきっかけに、子どもたち、学校と地域とが一緒に活動する仕組みづくりが必要。地域の人たちと関わりながら成長すれば、地域に帰って自分も何かやってみようという気になるのではないか。
- ・ 中学校も小学校のように、保護者へのメールが地域住民にも配信されると連携しやすくなる。
- ・ 中学校の探求学習の中間発表に参加させてもらえたら、何かヒントをもらえたかもしれない。学校の取組が地域に聞こえてくるといい。
- ・ 他地区の PTA によるリユース活動のように、中学生の制服などもおさがりどうぞの会で取り扱えと良い。管理方法、保管場所などに協力が必要だが、中高校生を巻き込んだ活動ができるといい。
- ・ 子育てサークルが、映画上映会やおさがりどうぞの会をできるようになったのは、話し合いの場を持ち、意見を出し合うことができたため。そういう場が必要。
- ・ 子育て世代は相互扶助の精神が欠け、地域の役員として活動に出てくることもない。子育て世代に地域活動が必要なものと理解してもらう必要がある。
- ・ 今始めた福祉教育を続けていくことが、大人になった時に実を結ぶと思う。学校でやってもらうのが良い。
- ・ 公民館に地域住民が集まりやすくする必要がある。
- ・ 地域住民が相談窓口や担当者、ネットワークの状況を把握するのは難しい。公民館が分かるようにしておいて、住民は公民館に聞けば分かる形になれば良い。
- ・ 地区の拠点である公民館はマンパワー不足。やりたいことがあったとしても、現状維持が精いっぱい。
- ・ 子ども食堂や小学校の多目的ホールの利用、休日の公民館の利用等、子どもの居場所として、考える必要がある。
- ・ 自治会に加入しない理由の１つは、自治会加入のメリットとデメリットがはっきりしていないこ

と。皆、同じようにサービスを受けられたらいいが、「負担金を支払っていない人にはちょっと…」という考えの方もおられる。整理されれば、自治会や子ども会の加入率も上がると思う。

- ・ 役員が交代しても持続可能な活動になるよう、内容や方法を検討していく必要がある。
- ・ 共済やクラウドファンディングのように、条件を満たせば各地区に納めているお金を活用できるような、地域に反映できる仕組みがあったらいい。
- ・ 地区でいろいろな主体が活動しているが、共通のものはコラボする等して整理した方がいい。
- ・ 地元の企業や団体が行うまちづくりの取組とのコラボした取組も考えていきたい。
- ・ 若い人に動いてもらいたいが、楽しいことでないと動かない。大人の楽しい姿を見せて地元に戻ってきてもらいたい。
- ・ 地域住民が自主的に動けたらいい。「こういうことやってみたい」と言ったら共感し、背中を押してくれるような人も必要。やりたいという意志があってもやり方が分からない人もいる。
- ・ 高齢化が進み、公民館まで行くことが困難な人が出てくるため、サロン活動に力を入れる必要がある。
- ・ 一番大切なのは居場所づくり。コミュニケーションがとれるため居場所は何個あっても良い。
- ・ 地域福祉計画について分からない人は多いと思われるため、分かっている人が地区社協に支援をしていくような流れがいい。
- ・ 主に地元住民が登校時の見守りをしているが、交通指導員は欠員が続き、通学路沿い廃屋等、危険な個所もある。他地区を参考に保護者の協力も検討してもらいたい。
- ・ 通学路の危険個所マップや子どもかけこみ110番の家の整理など、地域住民から学校に提言したことに対し、具体化し、継続するためのシステムを考えてもらいたい。
- ・ 在宅福祉員の見守り活動について、対象者の名簿情報を民生委員、在宅福祉員、自治会長で共有できるようにしていく。
- ・ 正月に津波注意報が発令されても、誰も何の動きもとっていない。地区社協の事業に高齢者の避難誘導についても考えてはどうか。

### これから目指すべき地域活動の方向性

- 子ども達を中心にした多世代交流を促す取組
- コミュニティスクールをきっかけにした子ども・学校・地域が連携した取組
- 公民館を中心とした地域活動、相談受付
- 地域課題を「我が事」とする話し合いの場づくり
- 子どもや親世代に向けた福祉教育
- 資金の確保、まちづくりとの協働など、自由度が高く参加しやすい活動

### (3) 市や市社協に対する要望

- ・ 市も市社協も自分たちではできない地区を手伝う必要がある。資料や会議の組み立て方などが分からない人が来た時に継続できるのか。人材を広く集めることは難しいため、誰でもできるようバックアップすることが大切。

- ・ 市も現行の制度がどう変化しているのか見極めて方針を示さないと、「地域で考えて地域でいい具合にやってください」というのはなかなか難しい。やり方や協議のテーマを示すなど、市から指示やサポートをしてもらえるような関係が必要。
- ・ 他地区のことはわからないため、他地区の状況を市や市社協が資料としてまとめて役員に配ってもらえると助かる。
- ・ 地域はお金がない、人もいない、何もない状況。行政が地域づくりの活動を計画し、地域に委託する形で住民活動を行うやり方が良い。行政が政策として地域に下ろしてくれれば、地域ですべきか検討できる。
- ・ 住民の福祉について、災害時も含めて行政がどこまで面倒を見るのかははっきりしない。大切なことは、地域住民がお互いに助け合い生活すること。そういうことをして欲しい。
- ・ 今後の米子市の地域福祉の方針や意図について、示して欲しい。
- ・ 米子市と市社協と一緒に政策を進めるのは良いが、同じようなものが別々に活動しているように感じる。中身を整理したり、両者の取組がリンクするよう更に連携して欲しい。
- ・ 集まる場所も必要。公民館は市の施設であり、昔に比べて使いづらさもある。飲食が出来た頃は地域づくりに大きな役割を果たしていた。空き家の利用なども検討の必要がある。
- ・ 公民館祭で中学生によるマルシェをしようとしたが、実現しなかった。空き家を活用してもおもしろい。利益がでるようにしたいが、住民だけでは難しいためプロに入ってもらうことも必要。空き家活用も建物を借りる代わりに固定資産税を負担するなどの仕組みができるといい。市や市社協が間に入ってもらえば、実現できないことはないと思う。
- ・ 市社協の福祉バスについて、1台子どもも使えるバスを配備して欲しい。
- ・ 自治会長訪問で聞き取った結果をまとめて説明し、意見交換をしたら良い。それが発展すると、公民館の事業計画になると思う。
- ・ どなたでも役員に入ってきてもらい、役員ができる体制づくりが必要だと感じている。
- ・ 「コミュニティワーカー」という名称は、特に年配の方にとっては分かりにくい。
- ・ 課などの名称を変更しすぎないようにしてもらいたい。分からなくなる。
- ・ 地域の方は、米子市と市社協の区別もついていない。事務局（公民館）だけでも担当が分かるように示してもらいたい。地域振興課のように、電話番号入りの担当者一覧表が欲しい。
- ・ 公民館の忙しさは地区によって違う。仕事量に応じたマンパワーの配分を地域振興課に要望したが、検討中のまま。効率的な活動ができるような体制づくりを市に検討してもらいたい。

### 米子市や市社協に担ってもらいたいこと

- 地域福祉活動に対する具体的な提案
- 地域での協議が進みやすくなるような支援
- 地域福祉計画・地域福祉活動計画の内容を踏まえた支援
- 利用しやすく、地域の拠点となる公民館の運営
- 米子市と市社協との連携強化